

令和元年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 人文学部文化学科
氏 名 塚本 明

活動テーマ	海女漁村の歴史的古文書の調査研究 －志摩市越賀郷蔵文書の文化財指定に向けて－
実施期間	令和元年 6月 1日 ～ 令和2年 3月 31日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>地域貢献活動支援事業に採択決定後、志摩市教育委員会と調整し、令和元年9月20日～21日に三重大学の学生・院生8名と志摩市教育委員会職員2名、文化財調査委員長と共に今年度第1回現地調査を実施した。教委整理分の記載を補充する作業を100点余について行い、未整理の絵図類20点については調査カードを作成した。前回調査時に課題となった、越賀・御座磯場争論に関して、地元の海女に案内して頂き、現地確認をした。</p> <p>令和2年2月14日に現地を訪れ、教育委員会の松井翔太郎氏と共に郷蔵中の文書の全体を把握し、今後の調査方針(案)を定めた。それに基づき2月20日～21日に、三重大学学生・院生11名、志摩市教育委員会、文化財調査委員、志摩市歴史民俗資料館の関係者4名の参加を得て、第2回現地調査を実施した。これまで未着手であった大長持中の算用帳簿類504冊について調査カードを取り、一部について撮影作業も行った。また、越賀在住の文化財調査委員・小川氏宅を訪ね、所蔵資料が越賀郷蔵文書の一部であろうことを確認した。</p> <p>(2) 地域への貢献(地域の発展・活性化への寄与, 広がり)</p> <p>志摩市教育委員会で検討している文化財指定の前提作業である。また当該文書は鳥羽志摩地域随一の歴史資料で、特に海女漁に関するものを多数含み、史料の解明を通して海女文化を核とした地域振興に大いに寄与できる。今回は、郷蔵以外の個人所有資料についても調査を行い、また教育委員会の担当者と、調査成果を地元に戻していく方法について意見交換をした。今後、さらに地域に密着した文化活動に展開していく可能性が高まった。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況</p> <p>調査自体を含め、共同実施者と連携を密にしている。またその活用を巡り、随時情報交換を行っている。</p> <p>(4) 大学の教育・研究成果のかかわり</p> <p>学生・院生が貴重な原文書を扱うことによる学習効果は非常に大きい。調査で撮影した写真資料は、大学の演習において検討教材として用いた。行政担当者との合同作業は、一種のインターンシップにもなっている。</p>

(5) イベント等開催実績(名称, 実施場所, 参加人数等)

(1)で記した調査事業。

(6)これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

志摩市の文化財指定に向けての基礎作業であるが、古文書の内容分析から海女漁、海女漁村、海女文化の歴史の実態について新たな知見を得ている。特に海藻漁については、全国的に見ても注目すべき史実が判明しつつある。次年度以降は、日本遺産事業に認定された事業の一部として調査を実施することを、志摩市教育委員会と調整している。

